

# 東谷山 / 日白山山行記録

## 03.30 東谷山



新雪のブナ林

膝上ラッセル

東谷山頂から仙ノ倉・平標山

目的地	東谷山（日白山に届かず）	期 日	平成22年3月30日（火）・快晴
山人	笠原正雄・伴場ちづ子・広井伸昭・土田ミエコ	特 記	新雪ラッセル。我々のほかに2人隊のみ。

地点名	時刻	記 事
二居林道入口	午前8:45発	5:25 与板発。大沢山荘 8:05 着。伴場さんをご主人がアッシー、カービングスキーを譲り受ける。広井車で見晴屋前に移動。最初からアルミワカンを履く。除雪壁を上り歩行開始。林道を進む今朝のトレースあり。
二居峠東屋	9:30	休んだのち直進斜面を登って雪尾根に上がる。雪庇を避けて時折林間を進む。
送電線鉄塔	10:05	通過する。日差しを受けるが気温は低い。先行者は登りに苦労しているらしくトレースが蛇行している。
先行者に追いつく	10:20	東京からの男2人隊。ここまで3時間と云う。かなりお疲れの様子だ。先頭交代でラッセル始まる。
ブナ広尾根	11:20	ヤブの進行も無くなり、新雪をまとったブナの林をラッセル。時たま、先頭を東京2人に代わってもらう。ますます深雪となり膝上まで隠れるようになる。その2人は登頂を諦めて帰ると言い出したが、何とか東谷山までと促す。
東谷山山頂 (穴掘り15分)	12:15	日白山が目の前に見えているのだが、ラッセル続きでは無理と思い、ここまでとした。縦走路の下降点となるピークの一つ手前で雪穴を掘り下げる。東京2人はやや遅れて登頂。帰りを急ぐらしく先行下山して行った。
下山へ	14:00	ここからだ谷川連峰は見えない。仙ノ倉・平標方向の雲が取れてきた。
送電線鉄塔	15:00	旧二居スキー場への降り口を探してみたものの選定できず、来た道を下る。
歩行終了	15:50	清水屋で入浴。大沢山荘泊。カニ鍋を作る。
翌 3 1 日	大力山へ	平標山 or 三国山のつもりだったが、深雪のため諦めて、Hの案内で小出の山へ。

## 04.19 日白山



日白山から谷川連峰

目的地	日白山	期 日	平成22年4月19日(金)・晴れ
山行人	笠原正雄・伴場ちづ子	特 記	リベンジ山行。(広井・土田さんは9日にリベンジ済み)
地 点 名	時 刻	記 事	
越後湯沢駅	午前7:25	新幹線改札口で合流。5:25与板発、小千谷～石内まで高速通勤割引。	
二居林道入口	8:30発	Bがスパッツを忘れてきて、大沢山荘まで借用に行く。「見晴屋」のおばあさんに「日白山かね、元気だネエ～」と声を掛けられる。すぐ上の鳥居の前から残雪歩きとなる。しかし雪も消えて所々地面が出ていた。	
二居峠東屋	9:00	直進斜面は雪が着いていない。林道を貝掛方向に少し下って雪のある所から笹藪をこいで雪尾根に上がる。昨日のものと思えるトレースが続いている。途中、爪もあるかなり大きな足跡が横切っている。たぶん熊のものであろう。	
ヤブコギ	9:10	雪尾根が切れてヤブコギ。すぐに送電線巡視路となる。雪も解けていてとても歩き易い。	
送電線鉄塔	9:25	この手前からこれ以後全行程雪歩きとなる。	
もう一度ヤブコギ	9:25	雪庇上を進むが、再度ヤブとなる。ストックを収納して進む。灌木の枝にカバー付のペットボトルがひっかかっていた。持って帰る。ほどヤブが終わった所で再びストックを使う。	
ブナ広尾根		先回は新雪の中を蛇行しながら登高したが、雪も締まり、直進で上る。	
東谷山山頂	10:40	一度立ち止まった程度で通過する。急降下へ。	
日 白 山	11:35	登り返して、頂直前から2人横に並んで登頂。灌木に「日白山1631m」と書かれた木札が下げた。山頂脇の雪に浅い亀裂が入っていた。平穏である。谷川連峰が広がるが、上空はやや暗い雲が張り付いている。日差しにより時々かわるがわるピークが少し輝く。ピッケルで足の置場を掘り下げ、そちらを眺めながら座る。地図を広げて山座同定をする。不確かな山も多い。	
下 山 へ	12:35	三俣の集落を見下ろせた。地王堂川の沢を下る予定を変更してそちらへ下る。	
標高点1581	12:55	タカマタギに向かってトレースが伸びている。その手前のピークに上がり、もう一度連峰を眺める。少し先に進み左折する。こちら側にはトレースは無いが、顕著な尾根をたどって下る。先ほどよりも小さめの熊と思われる足跡横断。	
一枚脱ぐ	午後1:20	広い疎林の尾根を快適に下る。スキーでも楽しく下れそうだ。標高1250付近で暖かくなりフリースを脱ぐ。右下に沢を覗けるようになる。	
ヤブコギ～河原へ	2:00	右の沢への斜面が次第に急になる。ヤブになった所でピッケルに持ち替える。雪が薄くなった笹斜面は足元が滑る。尾根の終端で前進出来なくなり、戻って左に見えていた河原に降りる。一度2m巾程の流れを飛び石でわたる。	
砂防堰を乗越える	2:10	コンクリートの上に上がり右岸側を乗越える。ここでは左岸の雪を使って下りていけば、早くにそちらの上にある林道に上がったのだ。	
コーヒープレイク	2:25～2:50	堰を終えて少し進むと、右岸上部の杉植林地から橋を渡って左岸に緩やかに下る林道に出る。ここまで来れば安心である。腰を下ろし、湯を沸かす。(あとで気付くのだがここでBがピッケルを置き忘れた。)	
フキノトウ		残雪の林道。雪消え際に出るフキノトウを採りながら歩く。	
水無観測所柱	3:30	ソーラパネルの無線観測柱(雨量・気温・日照・積雪)。湯沢町大字三俣字日白山とある。杉植林地、墓地、観光農園等を経て三俣集落の裏手に出る。	

三 俣 バス 停	3:55 着	4:28 のバスに乗って二居に移動。バスに乗ったとたん B がピッケルの忘れ物に気付く。取りに戻るには少し遠い。後日にしてもらおう。
二 居		清水屋に山荘の鍵を返しに行く。隣で林屋の「アンチャン」がシイタケの駒打ちをしている。少し話をする。奥さんの姿も見えた。B を湯沢駅で見送り帰板。

3月27・28日に、栃尾のヒロタンから大沢山荘泊、日白山ほかの誘いがあった。参加するつもりであった。しかしヒロタンに不幸が入り、天候不順もあり、延期となった。

残雪期のみのものであることから、伴場さんの呼び掛けでメンバーは変更があったものの再計画された。

3月30日は絶好の天気であったが、前日及び前々日に時期遅れの降雪があった。歩き出しはトレースがあり、途中までは楽をさせてもらった。先頭交代後は、大半を若い広井さんが頑張ってくれたものの、東谷山までが限度であった。それすらも東京からの2人が先行してくれなければ、届かなかったかも知れない。けれども青空が広がり快適山行であった。

リベンジの4月19日は雪登路も締まって、全行程壺足で進むことが出来た。ただし、前日、与板山山開きで飲みすぎ、宿酔いで体長不良での歩きだった。予想よりも上空の雲が取れず、絶景とまでは行かなかった。他に入山者は無く、貸し切り山で、なお且つ地図を見て決めたルートを下ってみるという充実の山行であった。

(下山ルートは次ページ)

